

浪江のさくら 2026. 6/29～/30

1. リバーライン緑樹の状態および幹空洞の状態確認 6月29日(月)夕方
2. 見出されていた「早咲きのサクラ」の現状確認
3. 富岡町役場訪問（飯塚安全対策課長）・富岡町内桜の調査 6月30日(火)午前
4. 殿様桜および浪江神社サクラ状況視察



サクラ祭りメイン会場となるリバーラインのサクラの幹空洞の状態確認

左：幹空洞をコンクリで塞いでいる様子

右：空洞内深さを棒状の金属で確認する小林氏（2026. 6. 29 撮影）

1. リバーライン緑樹の状態および幹空洞の状態確認



空洞内部は腐朽しているものの、僅かではあるが不定根の発生がみられた。

腐朽した部分をなるべく綺麗に掘削し、殺菌剤（今回持って行ったトップジンMペースト）を塗布し、ピートモスで空洞を充填するよう指導

1. リバーライン緑樹の状態および幹空洞の状態確認



少し珍しいケースであるが、空洞から「不定芽」（あるいは実生？）由来と考えられる若枝が出ているものも

これらも先の空洞化の場合と同様の対処で

1. リバーライン緑樹の状態および幹空洞の状態確認



幹上にキノコ（カワウソタケ）の発生・・・削ぎ取り、殺菌剤の塗布で対処を

（カワウソイタケ、サルノコシカケはサクラでは良く出るが、それ程深刻ではない。ベッコウタケが樹の根本から発生した際は倒木の可能性あり要注意）

1. リバーライン緑樹の状態および幹空洞の状態確認



・葉の大きさや色は良好な印象（剪定と施肥の効果）

・剪定の甲斐あって、見える範囲では、気になる枯れ枝や「サクラてんぐ巣病」罹患の枝はみられなかった

調査・確認の様子を読売新聞福島支局の内間木氏が取材

1. リバーライン緑樹の状態および幹空洞の状態確認



幹への「コスカシバ」被害を確認

被害の発生状況：5～9月に発生した成虫は樹幹の傷などに産卵します。幼虫は産卵後2週間ぐらいで孵化し、樹皮下に穿入した幼虫はそのまま越冬し、翌年成虫になるまで形成層を食害します。そのため樹皮が荒れ、胴枯れ病などを起こして徐々に衰退していきます。

右画像：コスカシバの成虫

（日本花の会 HP より）

<https://www.hananokai.or.jp/sakura/sakuramihonen-info/sakuramihonen-info-list10/>



1. リバーライン緑樹の状態および幹空洞の状態確認

防除方法・予防方法

1.薬剤による防除

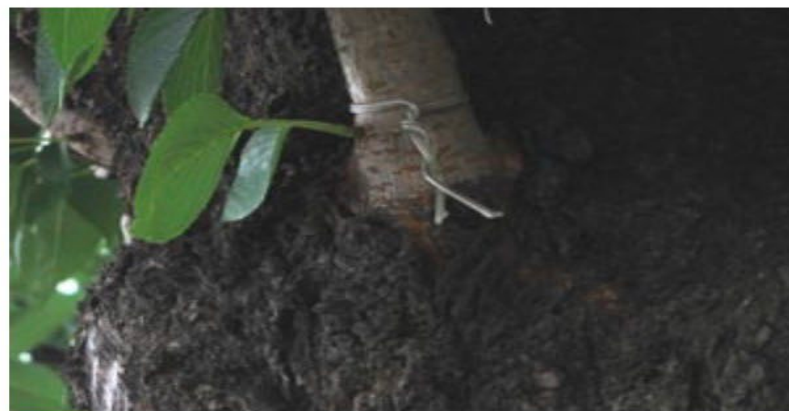
落葉期にコスカシバの被害部にMEP乳剤などを散布もしくは塗布します。5～9月に成虫が樹幹に産卵するため、この期間中は他の病害虫防除のために薬剤を散布することがある場合、樹幹にも散布しておくとも防除効果があります。

2.性フェロモン剤の利用



フェロモントラップ

粘着性シートと性フェロモン剤を組み合わせています。（イメージとしてゴキブリホイホイ）
匂いに誘われた雄を捕獲します。



交信かく乱剤

性フェロモン剤が入ったチューブ状のもの。
枝などに巻きつけることで
コスカシバの交信（交尾）を阻害します。

「コスカシバ」対策

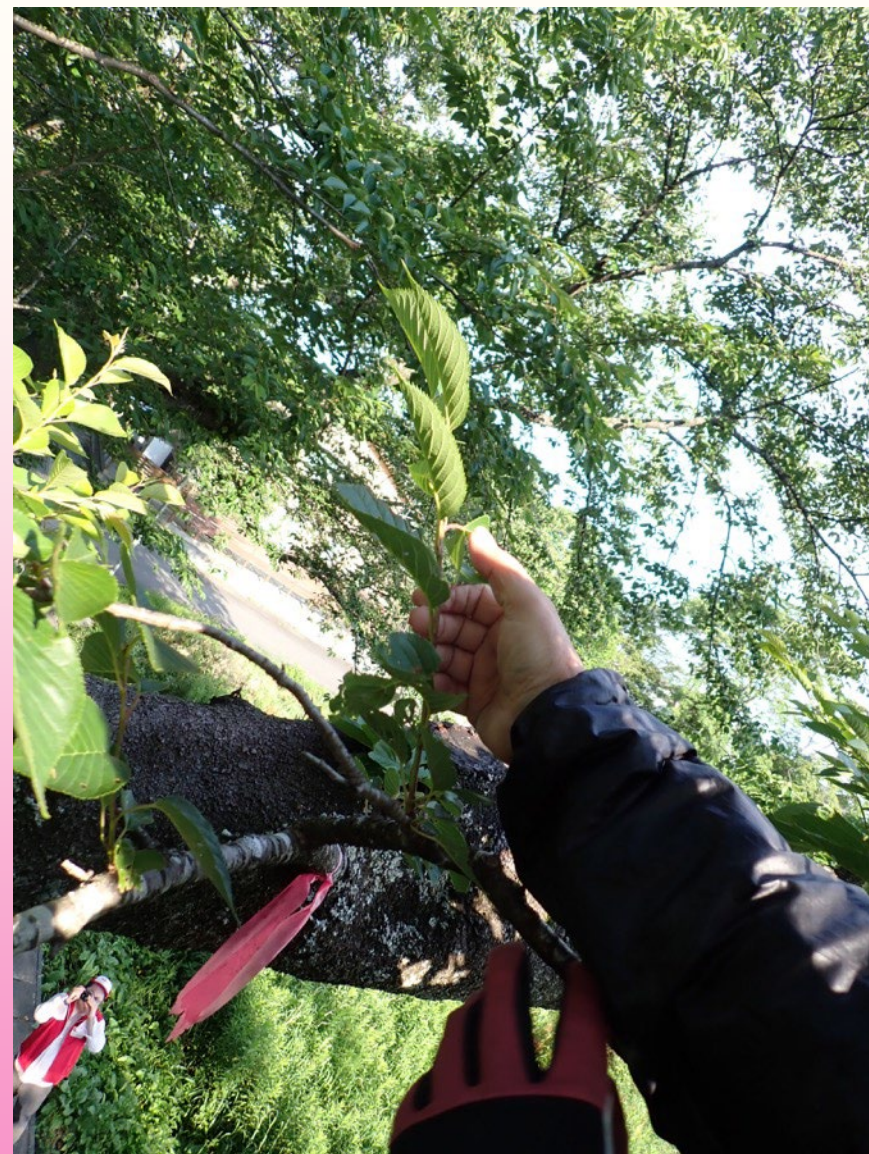
（日本花の会HPより：<https://www.hananokai.or.jp/sakura/sakuramihonen-info/sakuramihonen-info-list10/>）

リンゴ園でも問題になっていること、また示したような対策がとりうることを説明、弘前公園でも行っており効果的、ではあるが「費用」の問題

2. 見出されていた「早咲きのサクラ」の現状確認



高所作業車で枝および葉芽の様子を確認。



右：剪定によって上部が開け明るくなり、それによって状態が良さそうな当年枝を3～4本確認することが出来た。小林氏が触れている枝がその一つ。この枝には6～7つの芽接ぎ候補となる葉芽が認められた。

2. 見出されていた「早咲きのサクラ」の現状確認



左：この枝には5～6つの芽接ぎ候補となる葉芽が認められた。

右：この枝には6～7つの芽接ぎ候補となる葉芽（○囲い部）が認められた。

今回、3枝で合計20芽ほどの材料が得られそうであることが確認出来た

2026年9月7日(月)～8日(火) 昨年に引き続き（再トライ）オオシマザクラの台木に芽接ぎ（剥ぎ接ぎ）を行う予定

一部の葉芽は弘前に持ち帰り、本多管理の温室内のオオシマザクラへも同様に芽接ぎを行うことを予定（環境・リスク分散）

3. 富岡町役場訪問（飯塚安全対策課長）・富岡町内桜の調査



夜ノ森サクラとして、福島県内でも著名なサクラ名所
60～80年生のソメイヨシノが、2.2kmにわたって植栽されているとのこと

3. 富岡町役場訪問（飯塚安全対策課長） ・ 富岡町内桜の調査



剪定における枝の切り方＝切り口への対処について、小林氏から解説

3. 富岡町役場訪問（飯塚安全対策課長） ・ 富岡町内桜の調査



管理が継続されていたためか、サクラてんぐ巢病罹患の枝はみられなかった。
一方で、サルノコシカケ除去、下草刈りおよび施肥の必要性を小林氏から指摘
平成10年頃に「暗渠」を入れたが・・・あまり効果がみられなかった、とのこと

3. 富岡町役場訪問（飯塚安全対策課長） ・ 富岡町内桜の調査



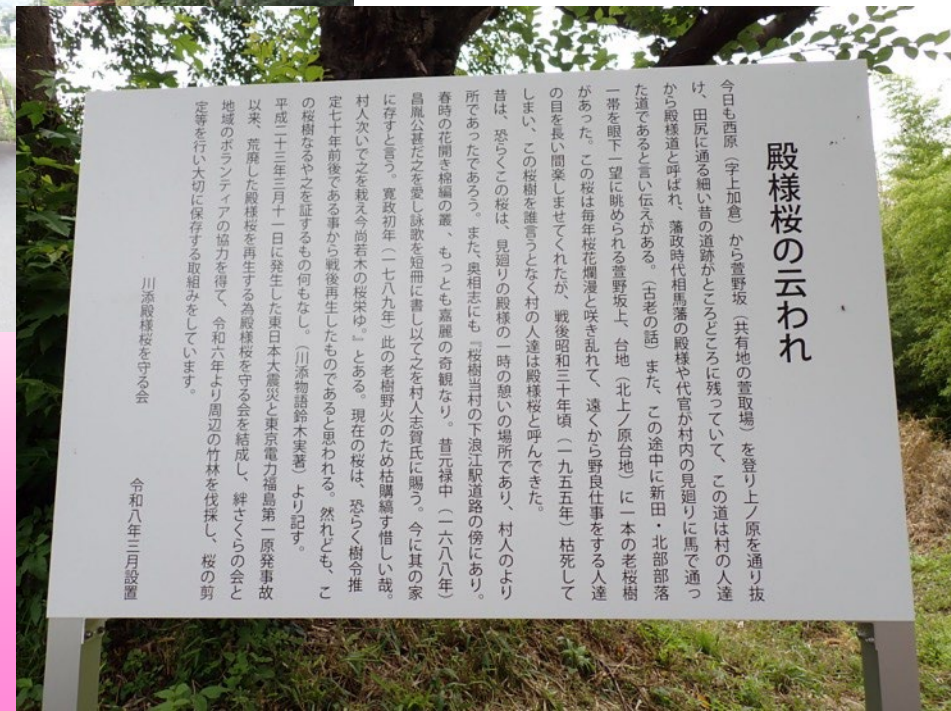
左：幹空洞への対処はやはり必要

右：メインストリート

このようにサクラてんぐ巣病罹患
はみられない



4. 殿様桜および浪江神社サクラ状況視察



看板も設置され、見事に「再生」

4. 殿様桜および浪江神社サクラ状況視察



シダレザクラが4本、ソメイヨシノが2本
アメリカシロヒトリによる食害を確認

やはり少し大がかりにはなるが、手を入れる
ことで、再生は可能と思われる。

以上が、私、本多からの報告となります。